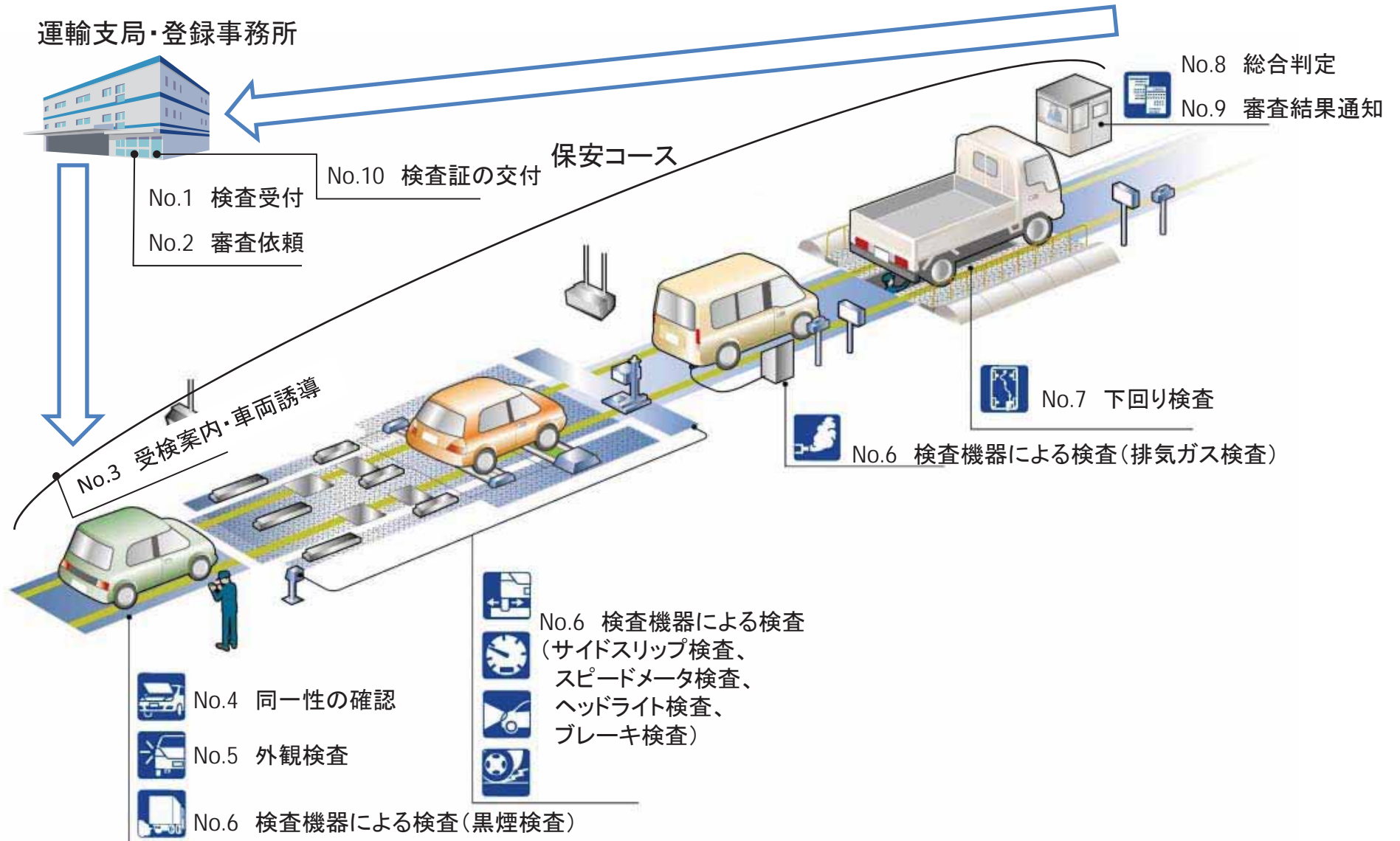


# 業務フロー・コスト分析における 業務改善検討について

平成27年2月6日

概要説明資料

# 【保安コース審査業務・事務区分】



## 【業務フロー・コスト分析における検討結果及びその過程】

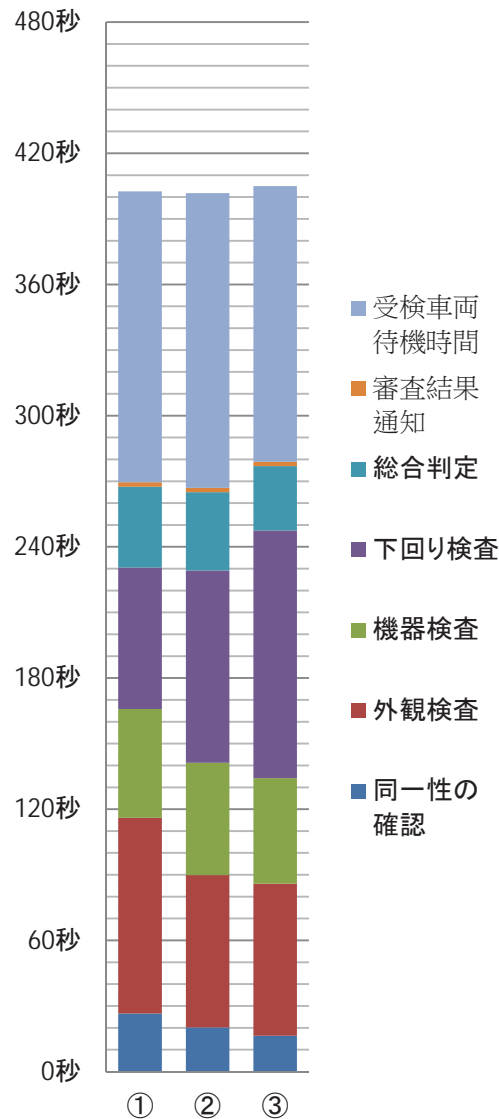
### 【結論】

認証工場受検とユーザー受検には保安コース占有時間に差異があることから、認証工場受検のみを対象としたコースを設定することにより認証工場受検の審査車両1台あたりの保安コース占有時間を40秒削減する余地がある。これにより、保安コース1コースの稼働時間を1日あたり1時間短縮し、当該時間を活用し超過勤務削減を実施する。

### 【結論に至った過程】

1. 調査のモデルケースとして平均的な業務量である八王子事務所を選定し調査を開始した。
2. 事務所ごとの違いを調査するため業務量の多い事務所として足立事務所（八王子事務所の約2倍）、業務量の少ない事務所として川崎事務所（八王子事務所の約2分の1）を選定し調査結果を比較した。
3. 時期ごとの違いを調査するため八王子事務所において5・6月（通常期）、7月（繁忙期）及び8月（閑散期）に調査を行いその結果を比較した。
4. 様式4に基づき比較した結果、8月（閑散期）とその他の時期において検査時間に差異があることが分かった。
5. 上記の差異は各検査時間に付随する微小な待機時間の差が一因であると思われることから、検査時間に待機時間を含めた保安コース占有時間で整理し、分析した結果、上記結論にいたった。

## 【八王子・足立・川崎事務所 事務所ごとの比較】



(単位:秒)

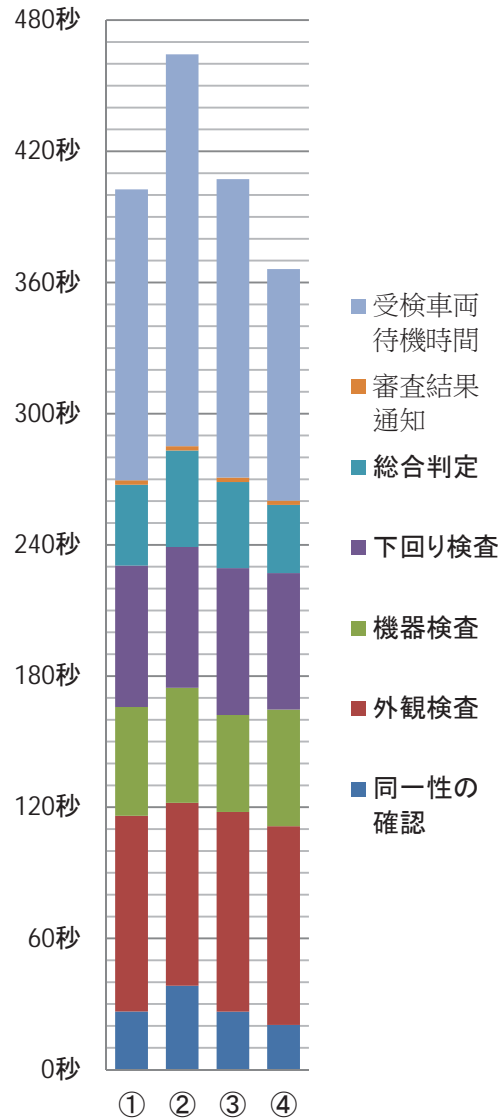
	①八王子事務所	②足立事務所	③川崎事務所
同一性の確認	27	20	16
外観検査	90	70	70
機器検査	50	51	48
下回り検査	65	88	113
総合判定	37	36	29
審査結果通知	2	2	2
検査時間合計	270	267	279
受検車両待機時間	133	135	126
保安コース占有時間	403	402	405

(単位:台)

	①八王子事務所	②足立事務所	③川崎事務所
計測台数	122	34	35

八王子事務所、足立事務所及び川崎事務所のいずれもほぼ同様の値であることから、**事務所ごとの相違はない。**

## 【八王子事務所 時期ごとの比較】

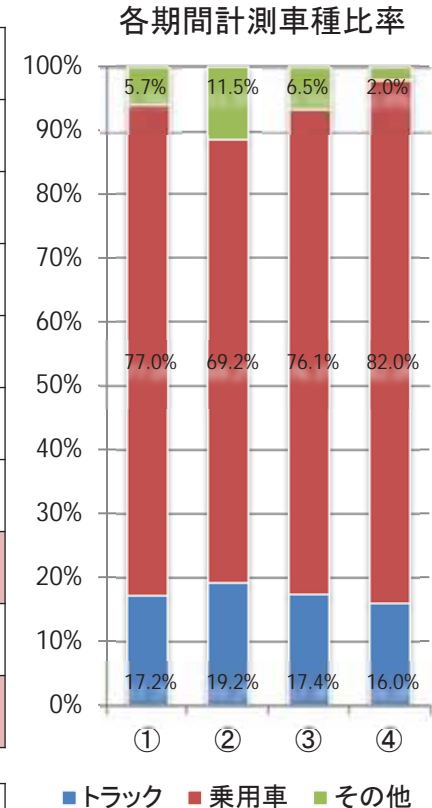


(単位: 秒)

	①全期間	②5・6月期	③7月期	④8月期
同一性の確認	27	38	27	20
外観検査	90	84	91	91
機器検査	50	53	44	53
下回り検査	65	64	67	62
総合判定	37	44	39	31
審査結果通知	2	2	2	2
検査時間合計	270	285	271	260
受検車両待機時間	133	179	137	106
保安コース占有時間	403	464	407	366

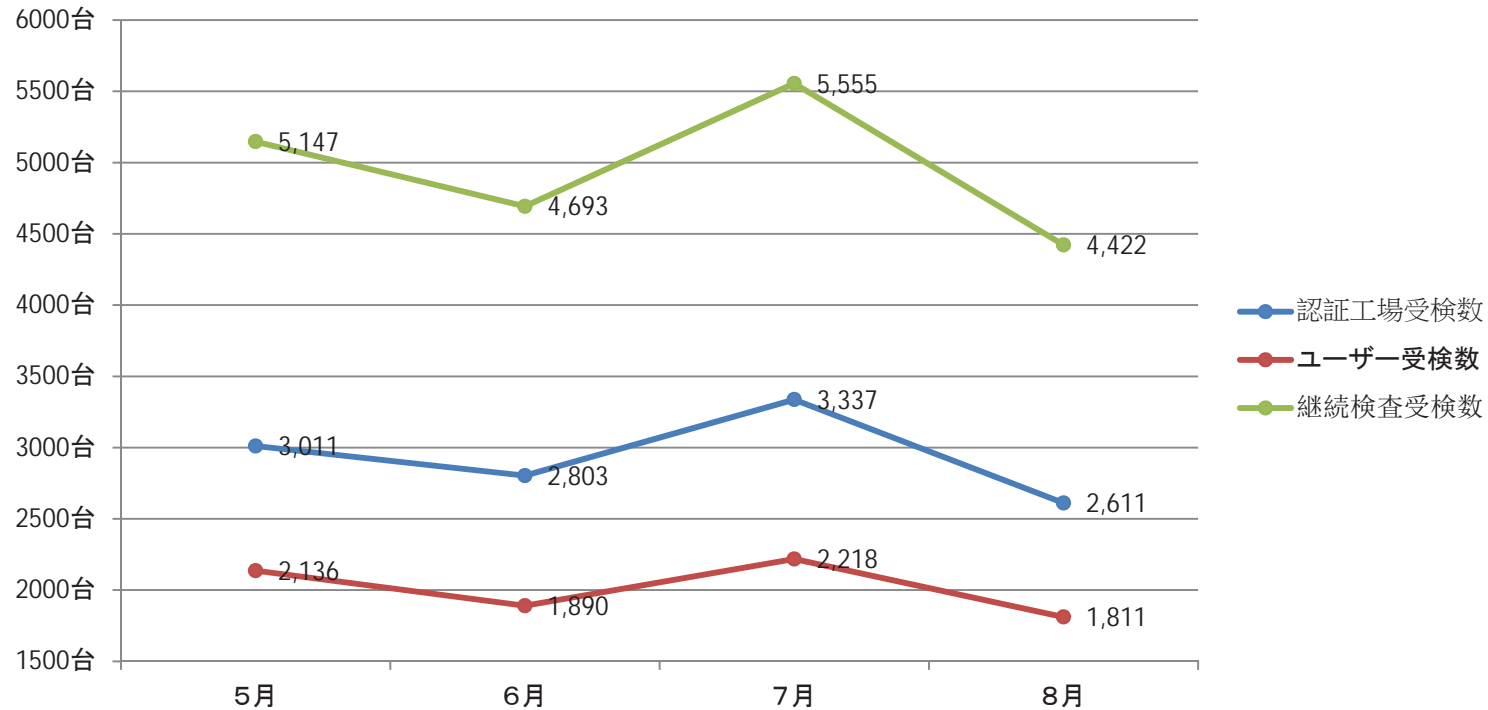
(単位: 台)

計測台数	①全期間	②5・6月期	③7月期	④8月期
計測台数	122	26	46	50



時期ごとの傾向については8月が空いており、効率的に検査が行われている。また、5・6月の保安コース占有時間が長いことについてはトラックの多いことにより説明できる。

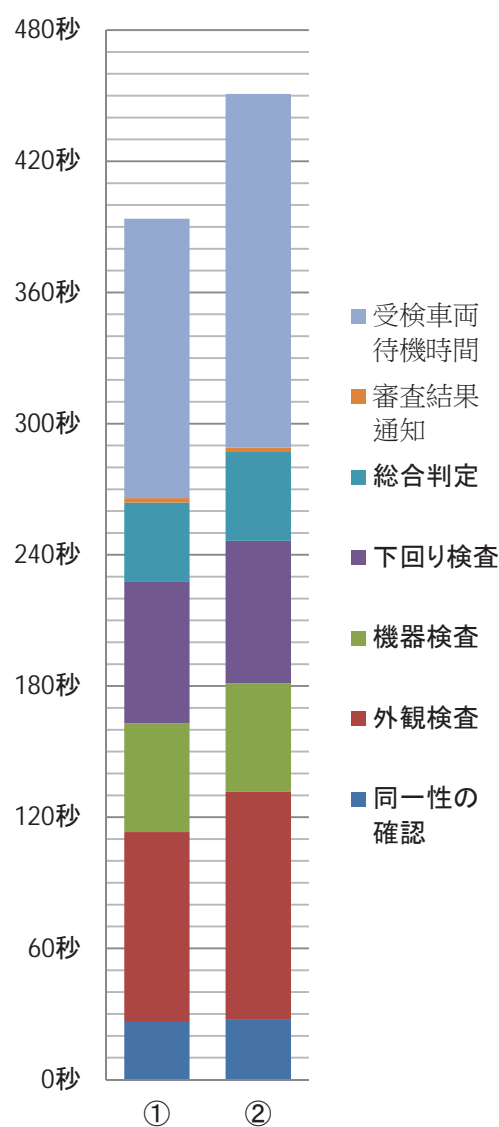
## 【八王子事務所 継続検査業務量の推移(5~8月)】



(単位:台)

	5月	6月	7月	8月	合計
認証工場受検数	3,011	2,803	3,337	2,611	11,762
ユーザー受検数	2,136	1,890	2,218	1,811	8,055
継続検査受検数	5,147	4,693	5,555	4,422	19,817

## 【八王子事務所 受検者ごとの比較】



(単位:秒)

	①認証工場 受検	②ユーザー 受検
同一性の確認	26	28
外観検査	87	104
機器検査	50	50
下回り検査	65	65
総合判定	36	41
審査結果通知	2	2
検査時間合計	266	289
受検車両 待機時間	128	162
保安コース 占有時間	394	451

(単位:台)

	①	②
計測台数	103	19

ユーザー受検者の待ち時間には受検案内等の説明時間が含まれている。

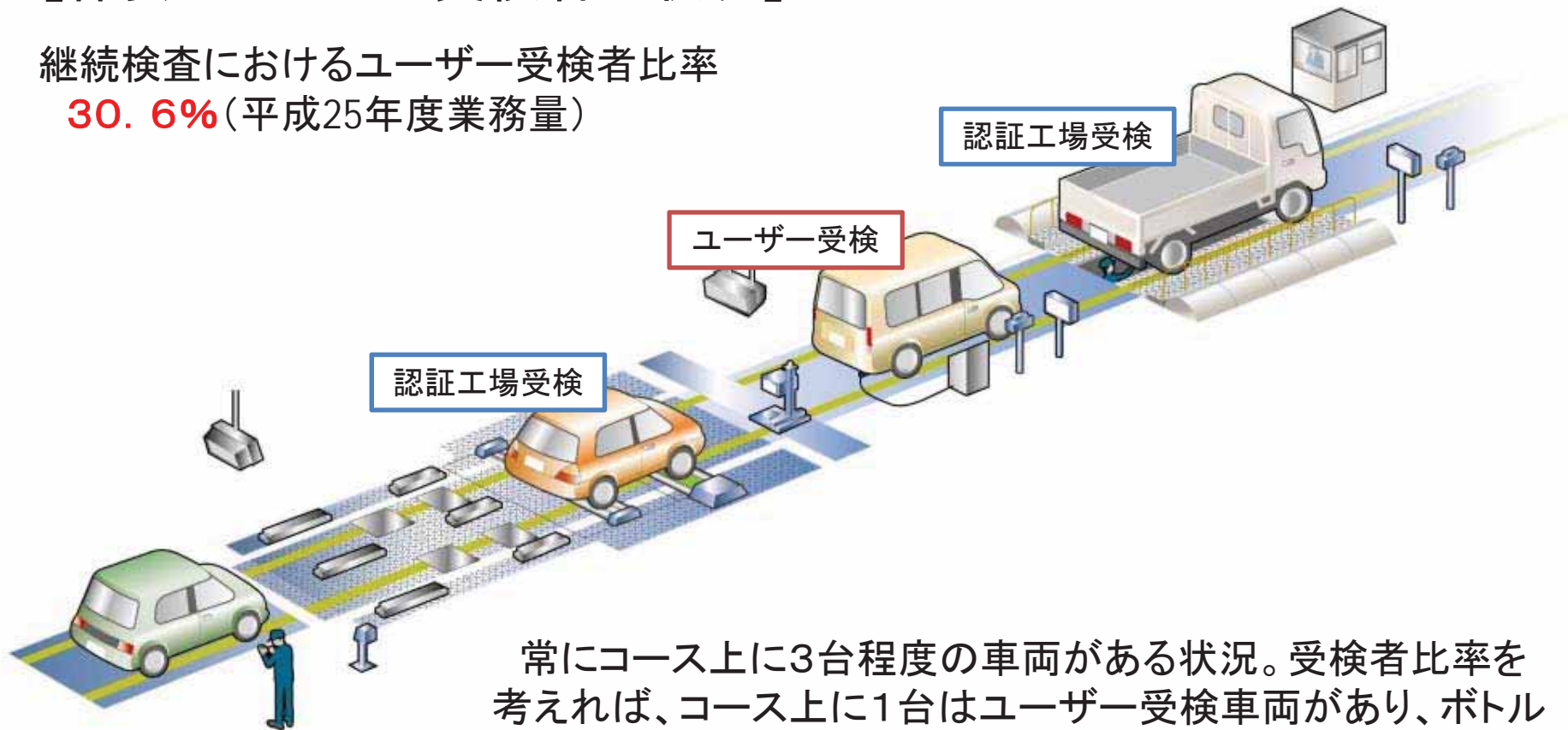
$$451 \text{ 秒} - 394 \text{ 秒} = 57 \text{ 秒}$$

認証工場受検の保安コース占有時間はユーザー受検と比較して57秒短い。ユーザー受検は、コース効率性にボトルネックとなっている恐れがある。これを踏まえて、このボトルネックの解消を図った場合のあり方を考える必要がある。



## 【保安コース内の受検者の状況】

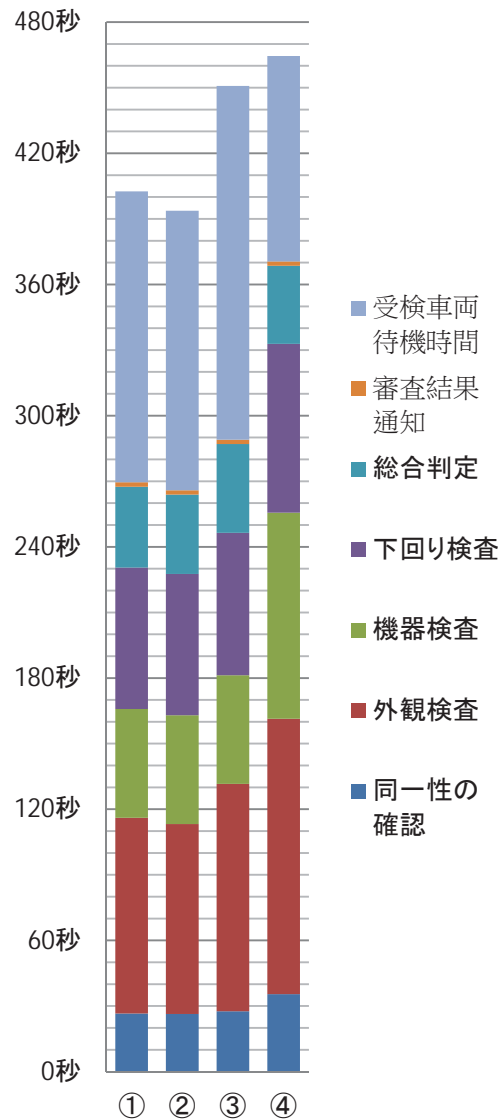
継続検査におけるユーザー受検者比率  
**30.6%** (平成25年度業務量)



常にコース上に3台程度の車両がある状況。受検者比率を考えれば、コース上に1台はユーザー受検車両があり、ボトルネックを起こしている。



## 【八王子事務所 トラック等の検査時間について】



全期間 (単位:秒)

	①全計測車両	②認証工場受検	③ユーザー受検	④トラック受検(認証)
同一性の確認	27	26	28	35
外観検査	90	87	104	126
機器検査	50	50	50	94
下回り検査	65	65	65	77
総合判定	37	36	41	36
審査結果通知	2	2	2	2
検査時間合計	270	266	289	371
受検車両待機時間	133	128	162	94
保安コース占有時間	403	394	451	465

(単位:台)

計測台数	122	103	19	20
------	-----	-----	----	----

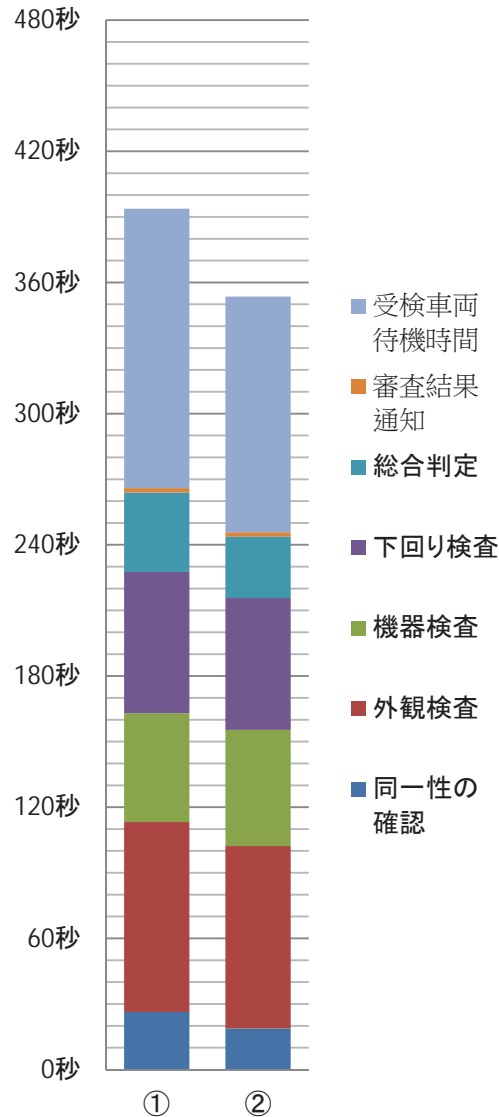
④371秒  
 V  
 ①270秒  
 ②266秒  
 ③289秒

④465秒  
 V  
 ①403秒  
 ②394秒  
 ③451秒

認証工場による**トラック受検**は、認証工場受検及びユーザー受検のどちらと比較しても**保安コース占有時間が長い**。

なお、トラックについては車体が大きいため特定のコースのみでの受検となっており、ボトルネックの解消はすでに行われている。

# 【業務フロー・コスト分析 実施結果について】



八王子事務所(認証工場受検) (単位:秒)

	①全期間	②8月期
同一性の確認	26	19
外観検査	87	83
機器検査	50	53
下回り検査	65	60
総合判定	36	28
審査結果通知	2	2
検査時間合計	266	246
受検車両待機時間	128	108
保安コース占有時間	394	354

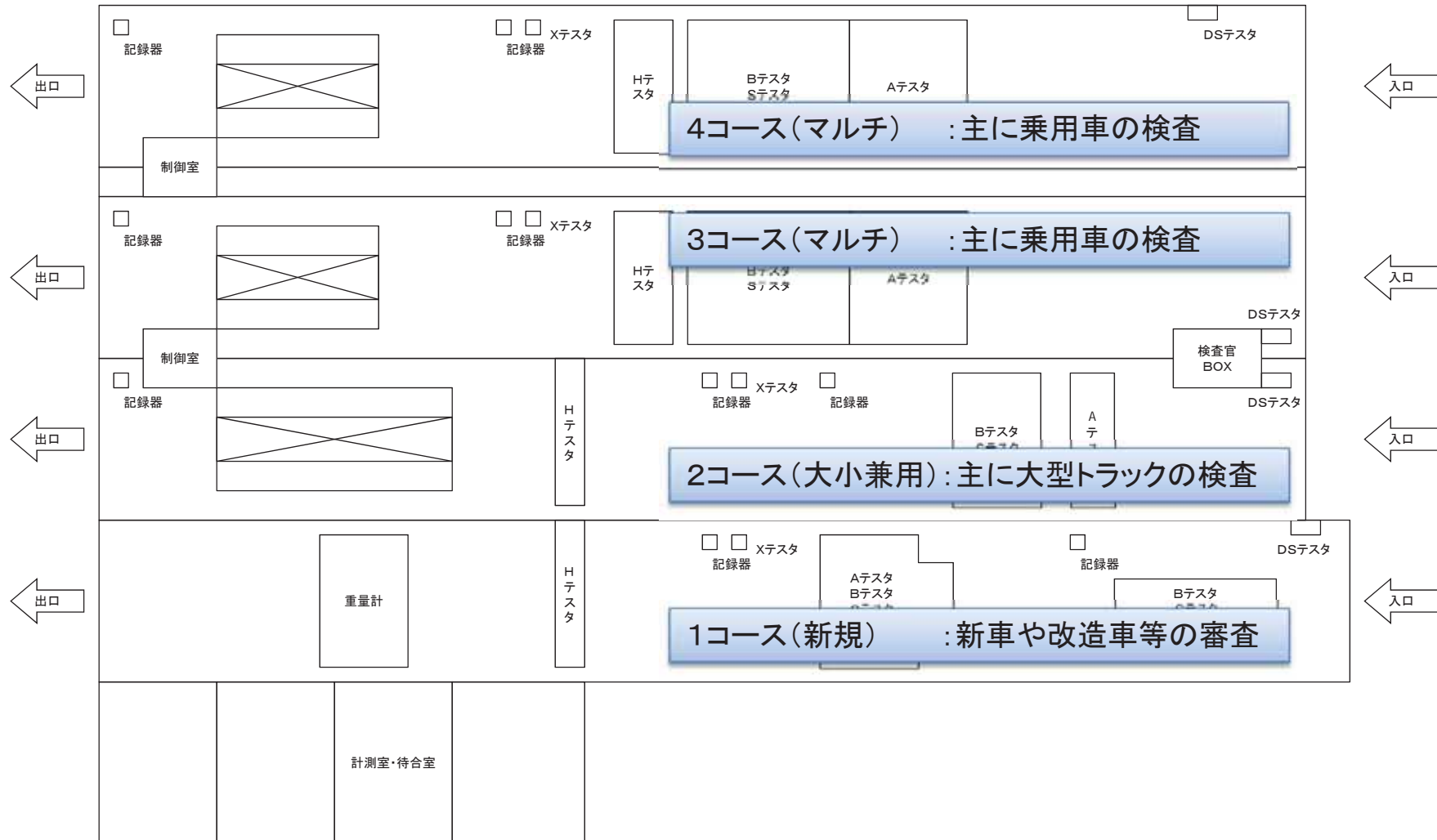
(単位:台)

計測台数	103	37
------	-----	----

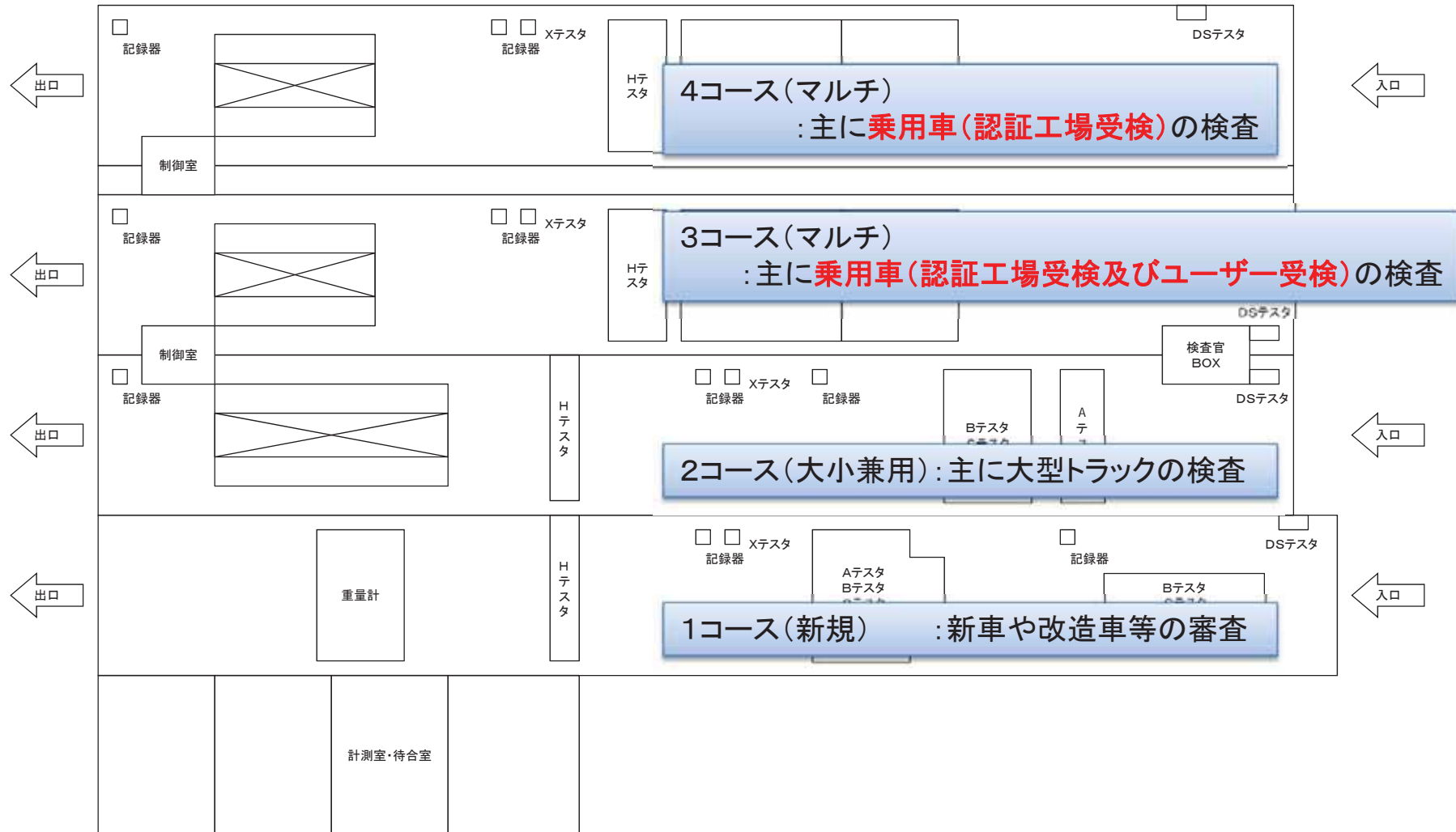
$$394秒 - 354秒 = 40秒$$

認証工場受検とユーザー受検の受検するコースを分離し、一部のコースを認証工場受検のみとした場合、効率的に検査を実施できる可能性がある。その場合、認証工場受検はコースが空いて比較的効率的に検査が流れている8月のような状態となる可能性がある。その場合**認証工場受検1台あたり保安コース占有時間が40秒削減される**。これにより、保安コース1コースの稼働時間を1日あたり1時間短縮し、当該時間を活用し超過勤務削減を実施する。

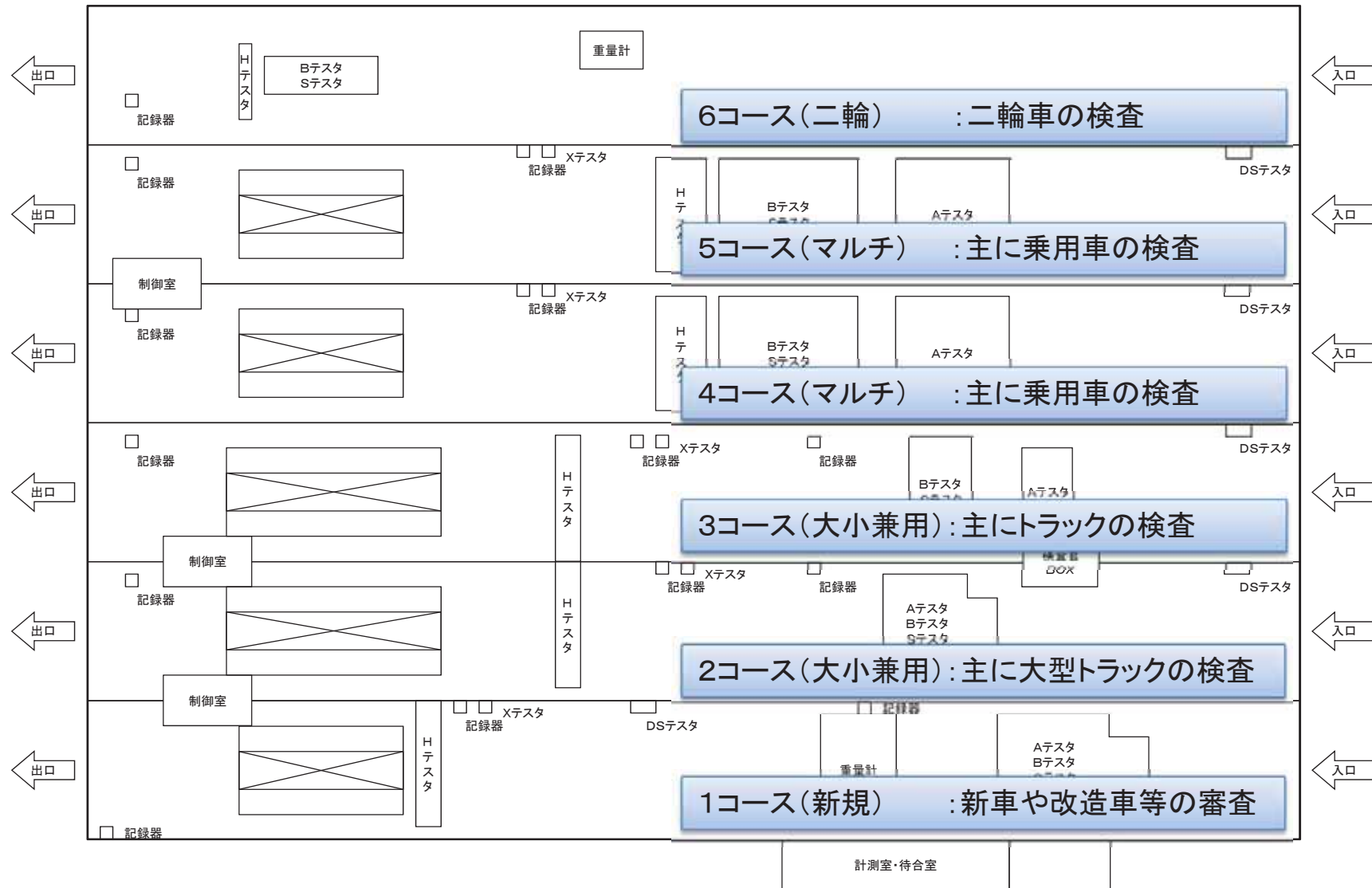
## 【八王子事務所 受検状況(現状)】



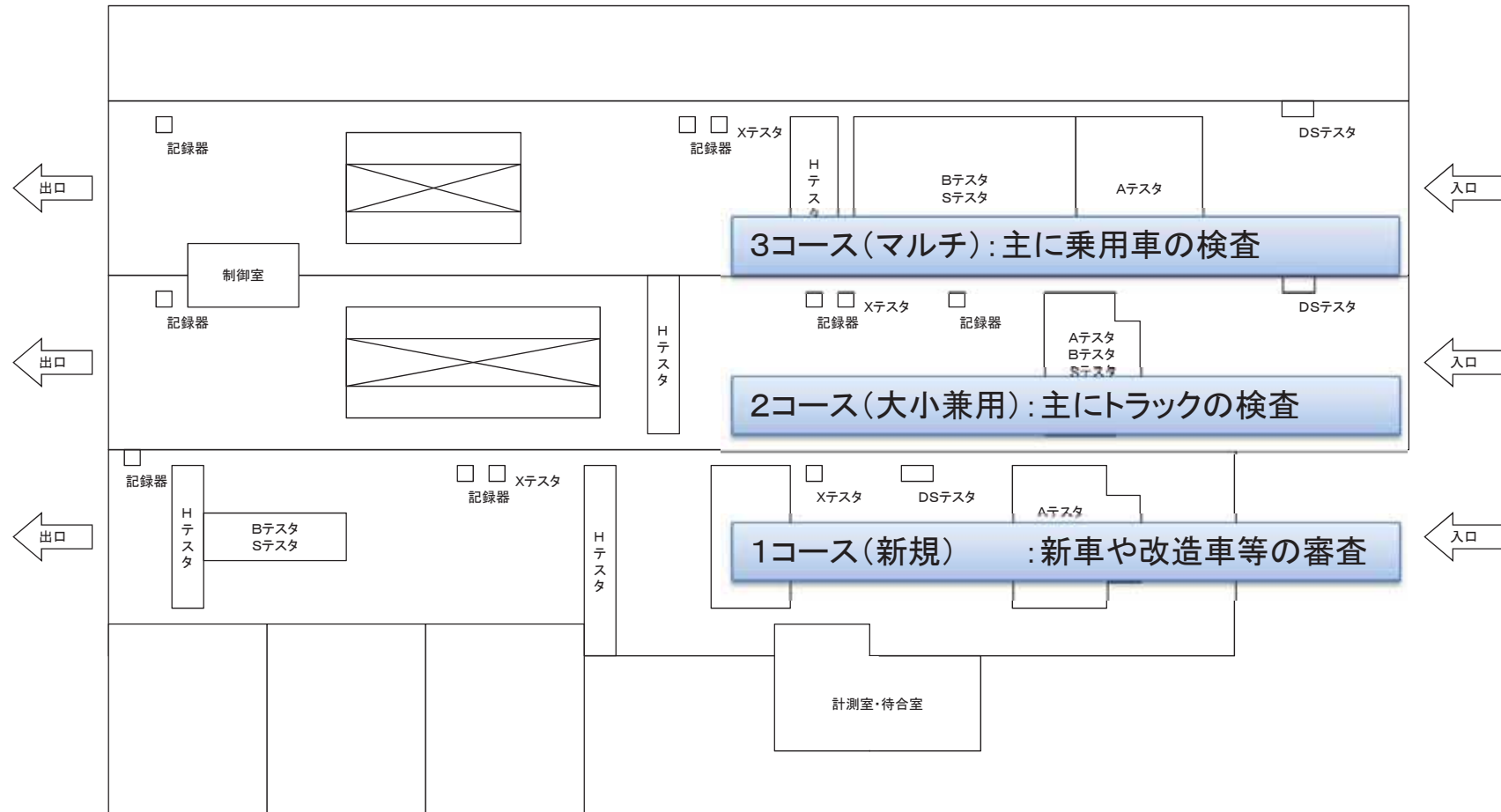
## 【八王子事務所 受検状況(改善施策後のイメージ)】



# 【足立事務所 受検状況】



## 【川崎事務所 受検状況】



## 【業務フロー・コスト分析における改善措置の進め方】

### ① 認証工場受検専用コースの設定

認証工場受検のみを対象としたコースを設定し、コース稼働時間の短縮が計られた場合にあっては、一部コースを途中から閉鎖するなどにより、当該コースの閉鎖時間に相当した、超過勤務時間の削減等を行う。

ただし、コースの運用等を大きく変更することから、現場の混乱を来たす事の無いよう、当面一部の事務所において実施し、運用面の課題を整理し、対策を講じた上で、複数コースを有する他の事務所へ拡大することとした。

これを踏まえ1月より八王子事務所において取組みを開始し検証を始めたところ。

平成27年7月

平成27年10月以降

当該運用に係る課題の取りまとめ

課題への対策を講じた上で、順次準備の整った事務所より運用開始

### ② 標準作業時間の把握

継続検査の審査時間の実測を他の事務所においても順次進め、標準作業時間を把握する。



## 【改善措置における効果】

### ① 認証工場受検専用コースの設定

受検コース分離の取組によって、認証工場受検の車両1台あたり40秒程度の検査時間が減少する。

これによりコース稼働時間の短縮を図る(※2)ことで、1コースについて、従来より一日あたり1時間程度閉鎖の前倒しが可能となり、その分職員を早期に執務室に戻らせ書面審査等を行わせれば、当該職員の超過勤務を縮減する効果(※3)が期待される。

※2 認証工場受検のうち2/3(八王子事務所であれば、月2,000台)程度が専用コースで受検すると、コース稼働時間が一月あたり22時間程度短縮される。これにより、1コースについて一日あたり1時間程度閉鎖の前倒しが可能となる。

※3 超過勤務時間の削減により、年間約4,000万円の支出削減効果が期待される。

### ② 標準作業時間の把握

この取組によって、標準作業時間を、各事務所の平均時間との差異を整理するための指標として用いることにより、ベストプラクティスや課題を洗い出すことができ、必要に応じて、当該ベストプラクティスや課題対応策を他の事務所に展開するなどにより法人全体としての業務効率化が期待される。